

# 知覚動考

「誰一人取り残さない 子供が育つ学校づくり」

寒河江市立南部小学校  
校長室だより  
校長 白田 敏幸

## 「いじめ」の原因は、大人がつくっているのかもしれない

かつて勤務した学校での出来事です。

ある子供（Aさん）が、友達を遊び半分で叩いていることが分かりました。担任は、Aさん呼び事情を聞きました。Aさんによると、自分が嫌なことをされたことがあるから叩いた、ということでした。担任は、Aさんに謝るよう話をしたところ、絶対に謝らないと言い張りました。他にもAさんに叩かれたことがあるという子供が数名出てきました。担任が、再度Aさんに話を聞いて謝るように話をしても、やはり謝らない、謝りたくないということでした。

その後（休み時間）、職員室でAさんについての話になりました。「Aさんは、なんで謝らないんだろう？」「自分がされてもいいのだろうか？」「家でもそうなのかな？」「やっぱり、ちゃんと指導するべき？」など、いわゆる「大人たち」が、Aさんについて話をしていました。

人に暴力をふるうことは、絶対にいけない、ということを大前提として、この状況を見たときに私が感じたことです。

- ① 大人がみんなでAさんを責めている。いけないことをした場合は、その人を みんなで責めてもいいという構図 になっている。
- ② Aさんがなぜ暴力を振るわなくてはいけなかったのか。Aさんが話した理由だけでなく、その奥にあることを理解しようとしているのか？
- ③ 人と違うことをしたり、ルールを守らなかつたりした場合、その人はみんなから責められてもいいのか？ こういった大人の姿を子供はしっかり見ている。

教室においても、ある子供の行動を見て、無意識（？）に全体の前で注意してしまいます。（家庭の中でもあることではないでしょうか。）授業を進める上で必要な場合も当然ありますが、ともすると、「人と違うことをする人」や「ルールを守らない人」は、注意しても（責めても）OKということをして 子供たちに示している のかもしれません。

また、この「ルール」は、子供たちが納得しているルールなのかも定かではありません。（学習規律という名の大人の都合のためのルール）

こうしてみると、（極端な考え方もかもしれませんが）いじめを助長しているのは大人であるという見方 をすることもできます。

子供一人一人の実態（家庭環境、成育歴、性格等）が違うので、子供に対する接し方に 正解はありません。しかし、子供の行動を見て、課題を見つけ、それを解決するために大人が関わるだけでなく、自分の言動を振り返ってみる のも大切なことだと感じています。